

2023年8月7日（月）

13:00~14:00 プレオープン（開店前オープン）

14:00 オープン

第19回 本日の話題提供者

**さいたま市民の会リモートカフェ
話題提供**

**さいたま市南区内谷在住
若狭 良治**

さいたま市民のリモートカフェ

2023年8月7日（月）

13:00~14:00 プレオープン（開店前オープン）

14:00 オープン

第18回 本日の話題提供者

若狭 良治

私のやってきたこと、やっていること

さいたま市民のリモートカフェ

自己紹介

若狭 良治（わかさ りょうじ）

1944年8月29日、中国ハルビン生まれ。

戦後中国東北地域を転々とし、最終地は長春市。

長春民主日本人小学校（民日小）2年目終了時に日本に帰国

1953年4月15日、第2次引揚船「興安丸」で日本（舞鶴）へ。

小学校は、札幌上白石、京都市吉祥院、美幌、札幌豊水

その後、札幌中島中学、札幌南高校

1969年3月、北海道大学農学部畜産学科卒業

1969年3月、日本生協連・北海道支所商品管理係検収担当、受発注担当。

家庭用品課商品管理主任。

1971年4月、室蘭中央生協出向 高砂支店長

1971年10月、北海道支所商品企画担当（瓶缶、粉製品、塩干、生鮮担当）

1974年4月、日本生協連事業部商品企画担当（塩干、生鮮、水産）を経て、

1980年、同生鮮課長。

1983年、総務部人事教育担当課長～人事教育部人事教育課長

1986年、指導部指導担当（経営指導、職域生協担当）

1991年、日本生協連中央地連事務局次長（組織課長）



郁子
八重

栄子

謙治 良治

発子

明子

清治

1953年4月15日 第二次引揚げ船（興安丸） 京都新聞社撮影（京都新聞社会面に掲載された）

帰国偶感

敗
破れたる国と思へど咲き誇る
桜花に心ぞぞろろきたつ

青台

帰国偶感

敗

破れたる国と思へど咲き誇る
桜花に心ぞぞろろきたつ

青台

昭和二十八年 四月十五日

於 舞鶴港

昭和二十八年四月十五日 於舞鶴港

父・清治の舞鶴についた時の想い



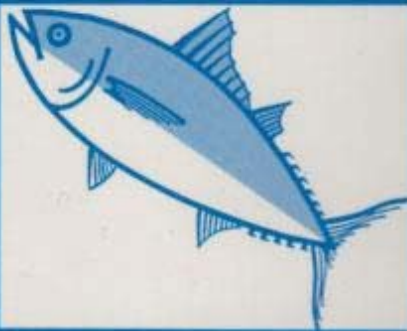
1956年(昭和31年) 札幌青木写真館



くらしの豊かさを求めて⑤

おいしい魚をさがす

体験的魚流通論



連合出版

編集協力 日本生活協同組合連合会

若狭良治著

1971年（昭和46年）

北海道支所商品企画担当（瓶缶、粉製品、塩干、生鮮担当）

1971年（昭和46年）

亜硝酸塩添加の「たらこ」から発がん性物質「ニトロソアミン」が検出。この以前から生協内部には「たらこ」の亜硝酸塩追放の声は存在していた。

1971年（昭和46年）

塩たらこの買い占め詐欺事件発生、品質の劣化 北海道漁連・北市（釧路）製品悪化

1972年（昭和47年）

無着色たらこの開発 評価 中央支所の大根エキス添加「たらこ」。

1973年（昭和48年）

関西支所と灘神戸生協で北海道寿都の難波商店で北転物で生産開始。

亜硝酸塩、大根エキス抜き。

1974年（昭和49年）

中央支所と北海道の一ウ山田水産（札幌市）／大島水産（積丹半島 古平町）

の近海物で「たらこ」生産（亜硝酸無添加）

石油ショック 終息

1974年、日本生活協同組合連合会事業部商品企画担当（塩干、生鮮、水産）

「たらこ」の交通整理、日本生協連における「塩たらこ」のルート

北海道支所...なし

東北支所.....八戸白銀漁協

中央支所.....北海道漁連（北市）、（株）一ウ山田水産

関西支所.....北海道漁連（北市）、南波商店

九州支所.....北海道漁連（北市）品質的には、一ウ以外の原料は、すべて北転船もの

各々の物質については、F A O / W H O 合同食品添加物専門家委員会（J E F C A）で審議、評価され、現時点では安全性が確認されているので、使用上限値も定められていません。

これらをp H調整の目的で使用する場合、単独での使用は少なく、2～3種類を組み合わせて使うことが多く、法律上も一括表示が認められています。

1975年（昭和50年）九州支所～北海土道支所、および主要な生協担当者による釧路の北海道漁連／北市工場で価格と品質で交渉。

その後、日本生協連の各支所と九州支所の水光社生協、関西支所の山口中央、灘神戸生協、中央支所の都民生協、北海道支所の札幌市民生協などで渡島半島（寿都）の難波商店、積丹半島（古平：大島水産）（余市：余市郡冷漁協）、札幌市場（山田水産）などと工場視察や交渉を重ねた。

1976年（昭和51年）大根エキスを抜くことで全国合意。（もちろん亜硝酸塩無添加）

1977年（昭和52年）一切の添加物を除去。冷凍流通のみとなった。

これが実質的なC O - O P たらこの出発

* 添加物については、東北支所では、天然着色料を使用。

* 大根エキス（天然亜硝酸塩）をすべて使用。

* それ以外の添加物については、チェックしていない。

* 合成着色料.....使用せず。

* 亜硝酸塩.....使用せず。

* 発色助剤.....アスコルビン酸ナトリウム、ニコチン酸アミド

* pH調整と保水性補強剤.....重合リン酸塩、グルコノデルタラクトン

* 凝固剤・保存料.....グルコノデルタラクトン、焼ミョウバン

* 甘味剤.....アラニン、ソルビット、グリチルリチン

* 調味料.....グルタミン酸ソーダ等

* 塩分.....生原料に対して一三～一五%が多い。

注＝pHとは、水素イオン指数。(potential Hydrogen)

酸性・アルカリ性の程度を表す言葉で、液中の水素イオン濃度の逆数の常用対数で表す。

すなわちpHの差が2ということは、10の2乗＝100倍の差。

pH7が中性。pH7より小さいと酸性、大きいとアルカリ性。

pH調整剤とは食品のpHを適切な範囲に調整し、食品の変質や変色を防いで品質を安定させ、他の食品添加物の効果を向上させるために使用する添加物です。市販のおにぎりやお弁当の場合は、主にpH調整剤を添加して食品のpHを4～5位の酸性に保ち、菌の増殖を抑えて食品の腐敗を防ぎ、日持ちを良くする目的で使われています。pH調整剤”という表記は特定の物質を指すものではなく、クエン酸、クエン酸三ナトリウム、炭酸ナトリウム、リン酸などを一括表示したものです。。

- 1991年7月、コープかながわへ移籍 コープ電動車両開発(株) 業務部長
- 1994年6月、社名変更 コープ低公害車開発株式会社、専務取締役
- 1996年11月、コープ低公害車開発(株)が神奈川県より「かながわ地球環境賞」を受賞
- 1998年6月、神奈川県の推薦で環境庁よりコープ低公害車開発(株)が「地域環境保全功労賞」を受賞
- 2006年3月20日、コープ低公害車開発株式会社 閉鎖 役員退任
- 2006年3月21日～9月20日、コープ低公害車開発株式会社 清算人非常勤
- 2006年3月15日、任意団体：DME自動車普及推進委員会 設立 事務局長 就任
- 2006年3月21日、株式会社北海道自然エネルギー研究センター (NERC) 取締役／東京支所長
- 2010年4月 1日、一般社団法人 DME自動車普及推進委員会を組織変更
理事・事務局長
- 2012年6月30日、株式会社NERC退任、
- 2012年6月30日、一般社団法人DME自動車&バイオDME普及推進委員会 退任
- 2007年7月 任意団体 超多収穫米普及連絡会 発起人、運営委員
- 2014年4月 一般社団法人 日本飼料用米振興協会 設立社員、監事

- ◆2014年5月～ 特定非営利活動法人未来舎 副理事長 現職
- ◆2015年3月25日～ 一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事・事務局長 現職
- 2010年4月～2012年3月 (第3～4期) 居住マンション管理組合・理事長
- 2016年4月～2018年3月 (第9～12期) 居住マンション管理組合・理事長
- 2018年4月～2020年3月 (第11～12期) 居住マンション管理組合・理事長
- 2020年4月～2022年3月 居住マンション管理組合大規模修繕専門委員会委員長
- ◆2022年4月～2024年3月 (第15～16期) 居住マンション管理組合 理事長 現職

著書 おいしい魚をさがす～体験的魚流通論～
 日本生協連「シリーズ・くらしの豊かさを求めて」 連合出版
学会 公益社団法人 自動車技術会 正会員➡現在退会
論文等 (次頁以降に掲載)

論文等執筆

- 1) ”LPG燃料エンジンシステムの研究開発動向”，
後藤新一，若狭良治，イ・ディヨブ，自動車技術，Vol55，5，pp.30-37，2001.5.
- 02) ”エンジンのアイドリングストップに関する研究”，1999.10.16
是松孝治（工学院大学教授），田中一弘・山崎慶嗣・雑賀高（工学院大学）若狭良治
（コープ低公害車開発）．（社）日本機械学会・講演会，
- 03) ”LPG自動車の開発動向” 若狭良治．（株）シーエムシー「新エネルギー自動車の
開発と材料・第4編第5章」，2001.8
- 04) 環境を守るための自然エネルギー読本「車社会のエネルギー消費と環境汚染」
2002.8 若狭良治．環境を守るための自然エネルギー読本編集委員会 北海道愛別高
等学校内（北海道上川郡愛別庁南町27 東洋書店
- 05) ”エネルギー使用14%削減への挑戦－創・活・省エネルギーへの道－
「省エネをもたらす交通政策」” 2003.1
若狭良治．NPO法人クリーンエネルギーフォーラム
沢孝一郎、大嶋茂男 他 交文社印刷所
- 06) ”日本DMEフォーラム 利用技術分科会 平成15年度活動報告書
自動車燃料としてのDMEの普及シナリオ」（2005.9.26）
若狭良治 日本DMEフォーラム 2004.3
- 07) ”最新環境負荷低減の技術とシステム”－環境調和型産業をめざして－
テラメカニクスと環境問題委員会
「何が問題であって、何を対策するのか？」若狭良治
テラミクス研究会（立命館大学理工学部建設環境系内 2002.9

- 08) ”新燃料 (DME・GTL軽油) エンジンシステムの研究開発”，後藤新一，若狭良治，小熊光晴，木下幸一，自動車技術会，Vol57，2，pp.77-84，2003.2
- 09) ”2003 International Forum on DME in Shanghai 2003.10.23・上海・上海交通大学「Challenge to low emission vehicles by customers」
- 10) ”世界におけるLPG大型バスの普及状況”
若狭良治，飯田訓正，自動車技術会，Vol58，11，pp.60-65，2005.11
- 11) ”DME自動車用燃料供給インフラシステムの研究開発(20055333)” 若狭良治，塚原裕展，大塚寿，高田和夫，竹内真之，木下幸一，後藤新一，鈴木信市，自動車技術会，春季大会報告，2005.5
- 12) ”中型DMEトラックの実用化研究開発(20055332)”
後藤新一，小熊光晴，若狭良治，林宏優，鈴木信市 自動車技術会 春季大会報告，2005.5
- 13) ”国際DME会議 (DME I) パリ・Hotle Sofitel 2004.10.12-14
「Path to the introduction of commercial DME vehicle by CO-OP」” 若狭良治
IDA:International DME Asociation First International DME Conference
- 14) ”第2回 アジアDME会議 (ADME II) 上海・上海交通大学 2005.9.18-20
「Path to the introduction of commercial DME vehicle by CO-OP」
若狭良治 Proceedings of 2nd ASIA DME Conference By China DME Asociation
- 15) ”DMEハンドブック 「DME自動車構造取扱基準」 「自動車用燃料充填DMEステーション」 若狭良治 日本DMEフォーラム 2006.4
- 16) ”自動車技術会年鑑 (6) 「その他の動力」
後藤新一，小熊光晴，塩谷 仁，辻村 拓，富田由紀夫，若狭良治 2006.8
Vol.60

- 17) ” DME Hand Book (英文版) 「Technical standards for DME vehicles」
「Filling station for DME vehicle」 ” 若狭良治 日本DMEフォーラム 2007.11 ©
2006 Japan DME Forum
- 18) ” 平成17年度 石油産業体制等調査研究事業 報告書「DME自動車構造取扱基準
(自主検討案)」 若狭良治 有限責任中間法人DME普及促進センター 2006.3
- 19) ” 平成17年度 石油産業体制等調査研究事業
報告書「海外におけるDME自動車の開発状況調査及び保安対策並びに保安法規に関
する調査」若狭良治 有限責任中間法人DME普及促進センター 2006.3
- 20) ” 日本DMEフォーラム 利用技術分科会 平成17年度活動報告書
「自動車用DME充填スタンドの研究」 (2005.5.28) 若狭良治 日本DMEフォー
ラム 2006.3
- 21) ” 日本DMEフォーラム 利用技術分科会 平成18年度活動報告書
DME自動車普及推進委員会の活動紹介 (役割と課題)」 (2006.8.1)
若狭良治 日本DMEフォーラム 2007.3
- 22) ” DME自動車普及推進委員会
平成18年度成果報告書「DME自動車用インフラ整備に関する考察」 (2007.3)
若狭良治
- 23) ” DME自動車普及推進委員会
平成18年度成果報告書「DME自動車をめぐる動き」 (2007.3) 若狭良治
- 24) ” DME自動車普及推進委員会
平成18年度成果報告書「DMEインフラ普及に向けた調査」 (2007.3) 若狭良治

- 25) ” DMEを取り巻く状況変化とわが国におけるその普及の試み「上海ショック!! 上海万博をクリーン燃料DMEバスで大気汚染の改善とエネルギー確保を図る” 若狭良治 石油天然ガスレビュー 2007.5 Vol.41 No.3 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構
- 26) 日本におけるDME自動車普及推進の活動と日中におけるDME自動車実現のために その1～4 燃料を巡る話 (私の体験記を含めて) 若狭良治 天然ガス鉱業会 「天然ガス2008年3号、4号、5号、6号」
- 27) 「DME自動車普及のシナリオ」天然ガス鉱業会「天然ガス2008年3号以降」4年間執筆。
- 28) 日刊自動車新聞 車笛欄 平成19年1月号以来、毎月1回 連載を5年間投稿掲載
- 29) 物流ニッポン「新たなトラック燃料の可能性 (上・下)」2014年10月23, 27日



低公害車の普及で表彰
「コープ」で指揮をとる

ひと

若狭良治さん

生協のマークをつけたトラック型のLPG車が目につく。食料や日用品を配達するための、液化石油ガスで動く低公害車だ。

不足で長く走れなかった。「使い勝手が悪いし、値段も高い。だからといって一台しか造れないのでは、組合員に納得してもらえない」

今では全国の生協がトラックの一割強を乗り換えている。電気や天然ガスで動く低公害車四種の開発には国から補助がでる。「役人は補助で低公害車を増やせばよいという発想です」。金がメーカーに流れ、開発の自主努力をばねていると批判的だ。

いくつもの生協が出資したコープ低公害車開発（本社・横浜市）が五日、環境庁の地域環境保全功労者選ばれた。統括マネジャーとして開発を考え、全国の生協に導入を働きかけてきた。「といっても、正社員は私一人」と笑うが、千四百八十台まで増やした立役者だ。

途方に暮れているとき、LPGを使うごみ収集車をトヨタ自動車が開発していると聞いた。ディーゼル車に比べ窒素酸化物が少なく、黒煙も粒子状物質も出ない、という。はたして売れるかと不安そろなトヨタの技術者を「普及できます」と説得し続けて一年、一回り小さなエンジンをつけた第一号ができた。

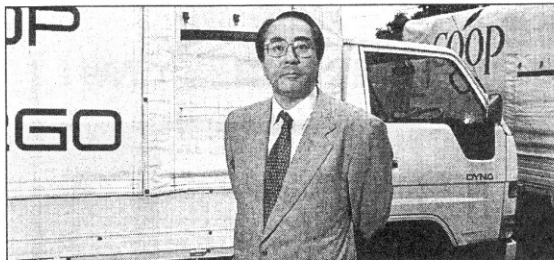
「千四百台にもなるとメーカーも行政も評価せざるをえなくなつた」 そばで手伝う女性たちは「出世欲、損得なしに世の中をよくしたいと思っっている」と評する。北大で学生運動に没頭して自治会をつくったころの情熱を持ち続けている。

日本生協連合会に勤めていた七年前、幹部に請われて職場を変わり電気自動車づくりを始めた。数千万円かけて試作車できたが、バッテリー

車を応援しながら見守った。

写真 高波 淳
文 杉本 裕明

ひとこと…………… 若狭良治



コープ低公害車開発株式会社が神奈川県環境部のご推薦を受けて、「平成10年度・地域環境保全功労者表彰」を受賞することができました。

推薦いただいた神奈川県の方々は全国を対象とした活動を進めてきていることで、「地域」ということではないのだがということでした。しかし、私も、この間LPGトラックの普及活動を進める中で、LPGトラックの導入の意義について次のように説明してきました。「地球環境保全」となると思うが、体で実感できなくわかって、体で実感できない。しかし、職場の作業・労働環境を改善するという点で、排ガスの臭いや黒煙、騒音、振動などをどのように削減するかということで、具体的な課題として理解ができる。

実際に、配送センターでディーゼルトラックからLPGトラックへの転換が進むに従い、朝の排ガス公害が改善してきたという具体的な現場報告を受けた時、推進してきた者としても、活動の意義の理解が深まりました。

そのような立場から見ると、今回の「地域環境」というジャンルは、むしろわたしたちが進めてきたことをわかりやすく評価していただいたという感想を持ちました。

今日、トヨタのハイブリッドカー『プリウス』の広告などの影響もあり、一般ユーザーの環境にやさしい車両への関心は高まってきています。具体的には、そのような車両の購入を望む消費者が増えているというアンケート結果も報道されています。電気自動車(EV)や天然ガス自動車(CNG)、ハイブリッドカー(HEVなど)の普及も進んできています。しかし、ここで問題なのは、環境庁が推進してきた『低公害車』は代替エネルギー車であることが条件となっていることです。それ自体は従来車両より排ガス性状が相対的にクリーンですが、現実的にディーゼル代替としては機能しきれない弱点を持っています。その理由として挙げられるのは、燃料がガソリンや軽油と比較して、携帯性に難があることです。そのため、ガソリン・軽油に勝る燃料はないとまで言われています。そのような中で、LPG(液化石油ガス)は、40年前からタクシー燃料としてガソリン代替燃料として使用されてきました。そのために、ガソリンと同じ排ガス規制を受け、従来エネルギーとして低減を目指す燃料とされてきました。コープ低公害車開発株式は、開発参加生協の要望を受け、現実的な低公害化を目指す立場から、ディーゼル代替が可能な車両であって、現実的に低公害なLPGトラックを自動車メーカーと共同で開発し普及を図ってきました。

今回、環境庁からこれまでの8年間の活動が評価され、「地域環境保全功労者」として表彰されたことは、これまでの活動が間違っていないこと。また、行政が進めてきた大気汚染防止および保全活動に対して、ユーザーの立場から積極的に改善を目指して提言してきたことが認められたものと受けとめました。

今回の「受賞」と「朝日新聞の人欄」に載ったことを誰よりも喜んでいただいたのは、全国の生協の組合員の皆さんでした。組合員さんたちが今まで行ってきた大気汚染測定活動の成果として自分たちのこととして喜んでいただきました。また、パートさんたちが切掛けを持って出勤してきました。元気が出ました。ありがとうございます。

低公害車の普及で表彰
コープに指導をとる

ひとこと

若狭良治さん

生協のマークをつけたトラック型のLPG車が目につく。食や日用品を配達するための、液化石油ガスで動く低公害車だ。いつもの生協が運営したコープ低公害車開発(発)が、横浜市が五日、環境庁の地域環境保全功労者に選ばれた。統括マネージャーとして開発を考え、全国の生協に導入を働きかけてきた。「正しい」とも、正社員は私一人と笑うが、千四百八十名で増やした立役者だ。日本生協連合会に動いていた七年前、幹部に請われて職場を変わり電気自動車へ乗り出した。数千円かじり試作車が多かったが、バッテリー不足で長く走れなかった。「使い勝手が悪いし、値段も高い。だからといって台しか進めないのでは、組合員に納得してもらえない」。塗方に着れるときは、LPGを使うことが収集車とトヨタ自動車が開発しているのと同じ。ディーゼル車に比べ、燃費が少なく、黒煙も粒状物質も少ない、という。はたして売れるかと不安そうなたヨタの技術者「普及できます」と断言し続けて一年、一回り小さなエンジンをつけた第一号ができた。全国を歩いた。ある市で「一番急な坂道を上ったら信用する」と言われ、挑戦する車を応援しながら見守った。

「環境をよくする生協運動とは何か、をいつも考えています」。53歳。

写真 高波 淳
文 杉本 裕明

朝日新聞 全国版(1998. 6. 6、一部地域 6. 10) 今日、トヨタのハイブリッドカー『プリウス』の広告などの影響もあり、一般ユーザーの環境にやさしい車両への関心は高まってきています。具体的には、そのような車両の購入を望む消費者が増えているというアンケート結果も報道されています。

電気自動車(EV)や天然ガス自動車(CNG)、ハイブリッドカー(HEVなど)の普及も進んできています。しかし、ここで問題なのは、環境庁が推進してきた『低公害車』は代替エネルギー車であることが条件となっていることです。それ自体は従来車両より排ガス性状が相対的にクリーンですが、現実的にディーゼル代替としては機能しきれない弱点を持っています。その理由として挙げられるのは、燃料がガソリンや軽油と比較して、携帯性に難があることです。そのため、ガソリン・軽油に勝る燃料はないとまで言われています。

そのような中で、LPG(液化石油ガス)は、40年前からタクシー燃料としてガソリン代替燃料として使用されてきました。そのために、ガソリンと同じ排ガス規制を受け、従来エネルギーとして低減を目指す燃料とされてきました。コープ低公害車開発株式は、開発参加生協の要望を受け、現実的な低公害化を目指す立場から、ディーゼル代替が可能な車両であって、現実的に低公害なLPGトラックを自動車メーカーと共同で開発し普及を図ってきました。

今回、環境庁からこれまでの8年間の活動が評価され、「地域環境保全功労者」として表彰されたことは、これまでの活動が間違っていないこと。また、行政が進めてきた大気汚染防止および保全活動に対して、ユーザーの立場から積極的に改善を目指して提言してきたことが認められたものと受けとめました。

今回の「受賞」と「朝日新聞の人欄」に載ったことを誰よりも喜んでいただいたのは、全国の生協の組合員の皆さんでした。組合員さんたちが今まで行ってきた大気汚染測定活動の成果として自分たちのこととして喜んでいただきました。また、パートさんたちが切掛けを持って出勤してきました。元気が出ました。ありがとうございます。

人・ひと

生協に低公害車 きました」と、振り返る。

約五千五百台（転換率約三五％）を普及促進したコープ低公害車開発がこの三月に十六年の幕を閉じる。

普及促進を担ってきた同社・若狭

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

この三月に十六年の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる

の幕を閉じる。専門家は、同氏の真摯な姿勢と、めぐる



「低公害車」を普及促進

— 若狭 良治氏 —

きた。民間配送業者のLPG車採用の原動力ともなった。「環境負荷啓発は、地味で地道な活動。成果を挙げるには持続的に活動を推進していかねければなりません。コープ低公害車開発は三月で十六年の幕を閉じます。生協の中で積極的に評価されたなら幸甚です」

柔和な表情の中に一瞬、寂寥感を漂わせたが、豪放磊落な笑いで、その陰をかき消した。

今後は、持続的な環境社会の

創出から「環境にやさしい次世

代燃料『DME』使用の自動車

研究開発と普及」などを推進し

ていく。

六十二歳。一九九六年 神奈

川県・かながわ地球環境賞受賞。

一九九八年 環境庁・地域環境

保全功労賞受賞。

る。

その中で、LPG

エンジンの共同改良

開発、インフラ整備、

環境負荷軽減のため

のセミナーなどを開

催。実践的な啓発活

動は、生協のみなら

ず、行政も動かして

次世代燃料DMEを使う
自動車の普及に取り組む

わかさりょうじ
若狭良治

さん 62 (さいたま市桜区)

DME(ジメチルエーテル)は、天然ガスや石炭のほか、バイオマス(生物資源)や産業廃棄物などからも生成できる。二酸化炭素や窒素酸化物の排出量が少ないとされ、低公害な点も注目されている新エネルギーだ。今年4月、民間プロジェクト組織「DME自動車普及推進委員会」の事務局長を引き受け、さいたま市浦和区に事務所を設けた。自然エネルギー研究センター「NERC(ネルク)」（本社・札幌市)の東京支所を兼ねる。「NERCは学生時代の友人が始めた企業。『看板を貸してほしい。自分で稼ぐから』と頼んで支所長となりました」と苦笑する。委員会は自動車部品メーカーや燃料製造企業、商社など17社で組織され、「自動車」「燃料」「インフラ」の3部会を持つ。まずは「黒煙が出ないなどの優れた燃料としての特性」を踏まえ、排

彩の 人

2006年

足元を見ながら 新技術に挑戦

ガス規制が段階的に厳しくなるディーゼルエンジンへの実用化を目指す。事務局は、企業が行う共同研究などのプロジェクトにおいて、重要な調整などを担っている。

中国・ハルビン市生まれ。北海道大農学部を卒業後、日本生活協同組合連合会の北海道支所に就職。「はじめはイカやアスパラなどを求めて北海道内を走り回った。東京の本部に異動後、冷凍魚の担当になり、お魚の本を出した」と振り返る。

コープかながわ(横浜市)に移った1991年、生協の関連企業「コープ電動車両開発」(1994年にコープ低公害車開発に社名変更)に出向し、電気トラックの研究開発を任された。後に自動車メーカーと、液化石油ガス(LPG)トラックの試作に挑んだ。

その結果、全国の各生協が保有する配送トラックのうち約35%がLPGに転換されるなど、一定の役割を果たしたとして、同社は今年3月に閉鎖された。自身も、「大学1



「夢を抱きつつ現実を直視して仕事を進めたい」と意欲を語る若狭さん

年から42年間世話になった」という生協を「卒業」した。DMEの実用化に向けては、幾つもの壁が立ちはたかる。「まだ普及に必要なDME自動車の法的な構造基準がない。補充スタンドの整備も必要。現実の足元をしっかりと見ながら挑戦し続けたい」と決意を語った。

(新井勝)

縦割り打破 エコトラック

業界を束ねて低公害車を開発

わかさりょうじ
若狭 良治さん(65)



@新潟市

杉本 啓司

天然ガスや石炭から合成するシメ
 アルエーテル（DME）という燃料
 がある。これをトラックの次世代燃
 料にしてから取り組んで10年目にな
 る。ディーゼルエンジンに使う燃料
 に比べ、二酸化炭素の排出は少なく、
 ぜんぜんくの原因の約1/3物質は極め
 て少ない。環境保護に配慮した低公害
 車は何か、と考えた結果がこれだ。
 「直線にDMEにたどり着いたわ
 けではない。まず試みたのは電気
 だ。日本生活協同組合連合会に動
 いていた私が加盟生協に頼まれ、小畑
 隆夫がトラックを開発する小さな会社
 に移ったのは1991年。メーカー
 と共同開発したが、1回の充電で走
 れる距離はわずか50kmで、2千万円
 もした。実用には向かない。

そんな頃、トヨタ自動車が開化石
 油ガス（LPG）を燃料にしたごみ
 収集車を作ろうとしていることを知
 った。LPGは粒子状物質を出さな
 いし、すでにタンクシーにも使われて
 いて、開発は難しくない。小畑トラ
 ックの共同開発を持ちかけた。
 完成車を見て、加盟生協の中には
 「電気トラックには夢があるが、
 LPGでは」と採用を渋るところも
 あった。だが、大切なのは「実用
 的」なこと。約7トンを導入した。
 たたLPGはガソリン車用エンジ
 ンを使うので、中型より大きなトラ
 ックには向かない。研究費を回り、
 行き着いたのが、スプレーの噴射剤
 などを使ってDMEだ。開発は「供給
 所の設備投資が人だ」となるとは定

められた。2001年、人脈をたど
 り、産業技術総合研究所や伊藤忠商
 平、岩谷産業などに打診してみた。
 すめと、各社ともDMEに意欲を持
 っていた。空任の部長も議長クラス
 を中心にしたグループができた。
 空任には億単位の金がかかる、親
 しい大学教授らに協力してもらい、
 国の補助金を出請した。支給される
 までは牛欄から2億円を借りてし
 いた。03年、いすゞ中央研究所の協
 力で4.5積み中型トラックの試作車
 が完成した。同じ補助金で、新潟市
 などにDMEの補給所が4カ所でき
 た。試作車は7家に走った。
 燃費や耐久件試験などを続ける
 うちにようやく昨年、国が動いた。国
 上交通省の公費事業にいすゞ中央研
 究所が手をあげ、新潟県と青森県で
 2台のトラックの耐久実験が始まっ
 た。実用化への大きな一歩だ。今年
 2月には、木材からつくったバイオ
 DME燃料をDMEに混ぜ、走行実
 験する。木材を利用することで、さ
 らに二酸化炭素の排出が減らせる。
 燃料は経済産業省、自動車交通は
 国土交通省と、縦割りの行政の弊害か
 ら、特にDMEを普及しようとい
 う意欲が湧き、それが業界にも
 影を落とすにいた。こんな無意味な
 ことはない。共同開発したグループ
 は06年、豊田通商なども加わり「D
 ME自動車普及推進委員会」に発展
 した。私は事務主任を兼ねている。
 それぞれの企業や研究所が協力し、
 お金を出したい、風通しをよくし
 て、目標に向かう。我々の役割はそ
 こにある。（聞き手・杉本啓司）

2009年1月3日 朝日新聞

縦割り打破！エコトラック業界を束ねて低公害車を開発

若狭 良治さん (65)

天然ガスや石炭からするジメチルエーテル (DME) という燃料がある。

これをトラックの次世代燃料にしようと取り組んで10年目になる。

ディーゼルエンジンに使う軽油に比べ二酸化炭素の排出は少なく、ぜんそくの原因の粒子状物質は極めて少ない。

環境保護に最適な低公害車は何かを、何か、と考えた結論がこれだ。

一直線にDMEにたどり着いたわけではない。

まず試みたのは電気だ。

日本生活協同組合連合会に勤めていた私が加盟生協に頼まれ、小型電気トラックを開発する小さな会社に移ったのは1991年

。

メーカー共同開発したが、1回の充電で走れる距離はわずか50キロで、2千万円もした。実用には向かない。

そんな頃、トヨタ自動車が液化石油ガス（LPG）を燃料にした
ごみ収集車を作ろうとしていることを知った。

LPGは粒子状物質を出さないし、すでにタンシーにも使われて
いて、開発は難しくない。小型トラックの共同開発を持ちかけた。
完成車を見て、加盟生協の中には「電気トラックには夢があっ
たが、LPGでは」と採用を渋るところもあった。

だが、大切なのは「実用的」なこと。約7千台を導入した。

ただLPGはガソリンエンジンを使うので、中型より大きなトラ
クには向かない。研究者を回り、行き着ついたのが、スプレーの
噴射剤などに使うDMEだ。

業界は「補給所の設備が大変だ」などと否定的だった。

2001年、人脈をたどり、産業技術総合研究所や伊藤忠商事、
岩谷産業などに打診してみた。

すると、各社ともDMEに意欲的であった。

翌年に部長や課長クラスを中心にしたグループができた。

試作には億単位の金がかかる。親しい大学教授らに協力して
もらい、国の補助金を申請した。

支給されるまでは生協から2億円を借りてしのいだ。

2003年 いすゞ中央研究所の協力で4トン積み中型トラックの試作車が完成した。

同じ補助金で、新潟市などに**DME**の補給所が4カ所できた。

試作車は立派に走った。

燃費や耐久性試験などを続けるうちによりやく昨年、国が動いた。国土交通省の公募事業にいすゞ中央研究所が手をあげ、新潟県首都圏で2台のトラックの耐久実験が始まった。

実用化への大きな一歩だ。

今年2月には、木材からつくったバイオ**DME**燃料を**DME**に混ぜ、走行実験をする。木材を利用することで、さらに二酸化炭素の排出が減らせる。燃料は経済産業省、自動車交通は国土交通省と、縦割り行政の弊害から、一緒に**DME**車を普及しようという意欲が乏しく、それが影を落としていた。こんな無味なことはない。

共同開発したグループは2006年、豊田通商なども加わり「**DME**自動車普及促進委員会」に発展した。

私は事務局長を務めている。それぞれの企業や研究所が協力し、お金を出し合い、風通しをよくして、目標に向かう。

我々の役割はそこにある。 (聞き手・杉本裕明)

全事業者が対象に

22年大規模修繕を実施

メロディーハイム武蔵浦和 29日に公開説明会



若狹理事長

【さいたま市】メロディーハイム武蔵浦和プライムフィールド管理組合(若狹良治理事長)は29日、2022年に予定する大規模修繕工事に向けた公開説明会を開催する。時間は午前10時〜正午。場所は内谷5丁目自治会集会所(さいたま市南区内谷5-13)となっている。参加者は建設会社・工務店・設計事務所・コンサルタント・単

大規模修繕を予定するメロディーハイム武蔵浦和プライムフィールド

体事業者(塗装・外壁・足場・通信など)・共同事業者など全事業者が対象。当日は理事長が工事範囲をはじめ、設計・施工の発注方法、管理についての提案を求める。説明会終了後、マンション見学会も予定している。提案内容は10、20年先を見据えた改修・管理が鍵となる。若狹理事長は「例えば通信環境は現在と10年前とでは全く違う」と話した上で「マンションは当然古くなる。常に新しく使うためには、新時代に即した利用方法や設備環境などを見据えたラフト面と運営が大切」と語る。さらに同理事長は「マンションの未来を語ってくれるような夢のある提案」を期待。「現在の管理会社にこだわることなく、将来的に発展できる意見を広く公募したい」と全事業者からのあらゆる提案を熱望した。またマンションだけでなく駐車場の改修も視野に入れている。同理事長は「現在の機械式立体駐車場もほとんど古くなるが、将来的には利用者が減少する」と話す。そこで一部駐車場で故障が出始めたことに触れた上で「自走式に一新した場合どうなるのかなど、いろいろな話を聞いてみたい」と話す。マンション(さいたま市南区内谷5-4-14)はRC造10階建て、94戸。08年3月に竣工した。駐車場は機械式。建物診断の結果、床や外壁、屋上防水などに不具合が確認できたことから、築15年目を迎える22年に大規模修繕へ踏み切る方針を全体総会で決定した。8日開催の理事会で同理事長は「提案事業者と共に成長するマンションに育てたい。良いアイデアを提案していただけたら幸せ」と語った。



屋上部分

外壁部分



2023年

一般社団法人 日本飼料用米振興協会 理事会

理事長	海老澤 恵子	中野区消団連	副会長
副理事長	加藤 好一	生活クラブ生協事業連合会	顧問
理事・事務局長	若狭 良治	NPO未来舎	副理事長
理事	渡辺 健太郎	昭和産業株式会社	執行役員 フィード事業部長
理事	鈴木 平	木徳神糧株式会社	執行役員 飼料事業部
理事	信岡 誠治	有識者 (元・東京農業大学農学部教授)	
監事	加藤 洋子	中野区消団連	

飼料用米普及のためのシンポジウム2023 主催
飼料用米多収日本一表彰事業 農林水産省と共同開催



**飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会
令和4年度 飼料用米多収日本一表彰式**

～ 飼料用米普及のためのシンポジウム2023 ～

開催日時：2023年7月21日（金）

会場：東京大学弥生講堂（一条ホール・ロビー）

東京都文京区弥生1-1-1 東大弥生キャンパス

参加費無料

ホームページ（<http://www.j-fra.or.jp/>）

◆飼料用米普及のためのシンポジウム2023

主催：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

後援：農林水産省

◆飼料用米多収日本一表彰事業

共同開催：農林水産省・日本飼料用米振興協会

開催要領

飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会
飼料用米多収日本一表彰式
～ 飼料用米普及のためのシンポジウム2023 ～

開催日時：2023年7月21日（金）

11:00 開場 ロビーで資料展示をしています。

12:30～13:00 シンポジウム 第一部

13:00～14:00 飼料用米多収日本一表彰式

14:15～16:50 シンポジウム 第二部

12:00～12:55 弥生講堂ロビーで資料展示

会場：東京大学弥生講堂（一条ホール・会議室）
東京都文京区弥生1-1-1 東大弥生キャンパス

～ 飼料用米普及のためのシンポジウム2023 ～ （その1）

挨拶 一般社団法人 日本飼料用米振興協会

連帯の挨拶 日本生活協同組合連合会

基調講演 農林水産省 政策農産局 穀物課

「飼料用米をめぐる情勢について」

理事長 海老澤 恵子

代表理事事業担当専務 藤井 喜継

課長補佐 田口 香織

令和4年度

飼料用米多収日本一表彰式

令和4年度 飼料用米多収日本一表彰式

平成29年度 飼料用米多収日本一表彰式

司会 農林水産省穀物課

主催：一般社団法人日本飼料用米振興協会、農林水産省

協賛：JA全国農業協同組合中央会 JA全国農業協同組合連合会 協同組合日本飼料工業会

協力：日本農業新聞

式次第

挨拶 農林水産大臣

表彰状・副賞の授与

単位収量の部 及び 地域の平均単収からの増収の部

農林水産大臣賞

//

農産局長賞

//

全国農業協同組合中央会会長賞

//

全国農業協同組合連合会会長賞

//

協同組合日本飼料工業会会長賞

//

日本農業新聞賞

//

農林水産大臣賞の受賞者の挨拶（木村 透）

//

（小久保 栄一）

全体撮影：授与者及び受賞者



令和
4年度

飼料用米 多収日本一 コンテストを開催！

飼料用米生産農家の生産技術の向上を目指し、多収を実現している先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介するコンテストを開催します。

■ 対象者

令和4年産の飼料用米の生産者で、次の要件を満たすこと

- ・飼料用米の作付面積が、おおむね1ha以上（区分管理に限る）
- ・飼料用米の多収化、生産コスト低減等に取り組むこと

■ 開催スケジュール

- ・4年6月1日 応募開始
- ・4年7月29日 応募締切
- ・5年1月末 収量の報告締切
- ・5年調整中 審査委員会
- ・5年調整中 表彰式



日本一には
農林水産大臣賞
が授与されます

■ 褒賞

成績優秀者には、以下の賞が授与されます。

- ・農林水産大臣賞
- ・農産局長賞
- ・全国農業協同組合中央会会長賞
- ・全国農業協同組合連合会会長賞
- ・協同組合日本飼料工業会会長賞
- ・日本農業新聞賞

■ 応募先及びお問い合わせ窓口

各ブロック事務局へ御相談下さい。
(裏面をご覧ください。)

【主催】(一社)日本飼料用米振興協会、農林水産省
【後援】JA全中、JA全農、協同組合日本飼料工業会

日本農業新聞



令和4年度

お待ちしています

あなたの応募を

多収自慢の

「飼料用米多収日本一」の
コンテストを公募しています。

公募期間 **6月1日**※～**7月29日**◎
詳しくはwebサイトをご覧ください。
<http://www.j-fra.or.jp/index.html>

事務局：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

令和4年（2022年）度「飼料用米多収日本一」審査委員名簿（敬称略）

東京大学	名誉教授	谷口 信和
国立研究開発法人農業・食品産業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター暖地水田輪作研究領域 水田高度利用グループ	グループ長補佐	中野 洋
株式会社トマル	代表取締役会長	都丸 高志
生活クラブ生活協同組合・神奈川	副理事長	大久保 明美
全国農業協同組合中央会	農政部長	生部 誠治
全国農業協同組合連合会	米穀部長	金森 正幸
協同組合日本飼料工業会	専務理事	高橋 洋
日本農業新聞 編集局	営農生活部 次長	原尻 大志
農林水産省 農産局	局長	平形 雄策

令和4年度 飼料用米多収日本一表彰式

令和4年度飼料用米多収日本一 受賞者一覧

【単位収量の部】

(敬称略)

褒賞名	住所	経営体 (集団名・個人名)	品種	作付面積 (a)	単収量 (kg/10a)
農林水産大臣賞	茨城県 龍ヶ崎市	<small>ながとほくぶ</small> (農) 長戸北部営農組合 代表理事 <small>きむら とおる</small> 木村 透	オオナリ 北陸193号	3,163	916
農産局長賞	埼玉県 加須市	<small>やまなか</small> (株) 山中農産 代表 <small>やまなか てつひろ</small> 山中 哲大	みなちから	136	881
全国農業協同組合中央会 会長賞	富山県 朝日町	(農) ふながわ 代表 <small>よしい ひさなり</small> 由井 久也	やまだわら	607	871
全国農業協同組合連合会 会長賞	茨城県 常総市	<small>かやま ゆきのり</small> 香山 行徳	ほしじるし	604	799
協同組合日本飼料工業会 会長賞	青森県 五所川原市	<small>たかすぎ しんえつ</small> 高杉 伸悦	ゆたかまる	371	811
日本農業新聞賞	青森県 五所川原市	<small>ふくし ひろき</small> 福士 浩樹	ゆたかまる	1,074	818

令和4年度 飼料用米多収日本一表彰式

令和4年度飼料用米多収日本一 受賞者一覧

【地域の平均単収からの増収の部】

(敬称略)

褒賞名	都道府県	経営体 (集団名・個人名)	品種	作付面積 (a)	地域平均単収 からの増収量 [単収量] (kg/10a)
農林水産大臣賞	埼玉県 深谷市	こくぼ えいいち 小久保 栄一	北陸193号	356	+373 [843]
農産局長賞	佐賀県 白石町	ながまつ ひであき 永松 英昭	ミズホチカラ	137	+225 [741]
全国農業協同組合中央会 会長賞	茨城県 常総市	くらもち のぶお 倉持 信雄	ほしじるし にじのきらめき	978	+310 [853]
全国農業協同組合連合会 会長賞	宮城県 栗原市	うじいえ のぶお 氏家 信夫	萌えみのり	239	+238 [772]
協同組合日本飼料工業会 会長賞	山口県 山口市	かいち ひろし 海地 博志	北陸193号 みなちから	228	+240 [779]
日本農業新聞賞	岐阜県 養老町	そぶえ (農) 祖父江 當農 代表理事 さたけ としかず 佐竹 利一	北陸193号 みなちから	1,731	+247 [717]

第9回 飼料用米普及のためのシンポジウム2023

開催日時：2023年7月21日（金）

11:00 **開場** ロビーで資料展示をしています。

12:30～13:00 **シンポジウム 第一部**

13:00～14:00 **飼料用米多収日本一表彰式**

14:15～16:50 **シンポジウム 第二部**

12:00～12:55 **弥生講堂ロビーで資料展示**

会場：東京大学弥生講堂（一条ホール）

東京都文京区弥生1-1-1 東大弥生キャンパス

主催 （一社）日本飼料用米振興協会

後援 農林水産省

アピール「食料安全保障の鍵をにぎるのは水田農業と飼料用米」

政府は食料・農業・農村基本法の見直しで、このほど「中間とりまとめ」を発表し、食料安全保障の強化とともに農業施策の見直しの方向を打ち出した。具体的には「国産への転換が求められる小麦、大豆、加工・業務用野菜、飼料作物等について、水田の畑地化・汎用化を行うなど、総合的な推進を通じて、国内生産の増大を積極的かつ効率的に図っていく。また、米粉用米、業務用米等の加工や外食等において需要の高まりが今後も見込まれる作物についても、生産拡大及びその定着を図っていく」というものである。

この施策のなかでは飼料用米の言葉は一言も触れられず完全にスルーされている。他方で新たに登場したのは水田の畑地化である。水田を水田でなくして畑地にするということは、法的には「田」から「畑」に地目変換する。地形的には水田の畦（あぜ）を撤去し、水田の土壌下部構造である硬盤層は崩し水が貯められないようにする。基盤整備は畑地化に向けて進めるということである。しかし、この施策はこれまでの水系を断つことから水質や昆虫など生態系や環境に与える影響が大きいと考えられる。

畑地化して何を作るかということと子実用トウモロコシがあげられている。

しかし、子実用トウモロコシが本当に日本の気候風土に適しているのか疑念を持っている人も多い。

水田の土壌は粘土質であり水はけなどの土壌条件は良くない。

とくに湿害などで収量は不安定で、果たして自給率向上や食料安全保障につながるのかは疑問である。

わが国の農業の根幹は水田農業で、今後ともその位置づけは変わらない。

50有余年に及ぶ米の生産調整のなかで、麦、大豆、野菜などへの転作が進められ、すでに定着している。そうしたなかで、水田を水田として利用する飼料用米は稲作生産者のリスク分散作物のひとつとして定着しており基本計画の目標を上回るまで拡大してきた。

いま、畜産危機で奪いあいとなっているのは飼料用米である。

輸入トウモロコシ価格よりも飼料用米の方が安いのは、畜産経営にとっては大変なメリットである。水田で何をどう作るか。

水田の利活用と絡めながら極めて低い飼料自給率を高め、国産の飼料穀物をどう生産拡大していくかが、今後の食料安全保障の基本戦略となるべきである。

その要に位置するのが飼料用米である。

そこで、政策提言として次の3点を提起します。

1. 飼料用米を飼料自給率の向上（2030年の飼料自給率目標は9ポイントアップの34%）の柱に位置づけて生産目標を70万tから大幅に引き上げること。
2. 飼料用米を食料・農業・農村基本法見直しの中で食糧安全保障の要と位置づけ、増産と安定供給に向けた条件整備を図るため、法制化及び価格形成・保管流通の合理化などを食糧の国家戦略の一環として推進していくこと。
3. 飼料用米の多収品種の増殖と供給体制の整備を含め真に生産コストの低減ができるような施策の強化を図ること。

2023年6月30日

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

マンションの大規模修繕工事に関わりました

メロディーハイム武蔵浦和プライムフィールド 第1回 大規模修繕工事実施に関わる事業の責任者（大規模修繕工事専門委員会 委員長）として、工事専門事業者を対象に説明会を開催。大規模修繕工事、関係事業者、設計事務所など16社が参加。



大規模改装工事前の建築後14年経過の状況



大規模改装工事後の状況



大規模改装工事後の状況



大規模改装工事前の建築後14年経過の状況



大規模改装工事後の状況



**大規模改装工事では手つかずだったが、工事後
中庭の通路のタイルの損傷・汚染を点検**



**タイルを天然石の御影石で改修後の状況
特に、雨降り後の御影石が美しい。旅館・
割烹の庭の様と好評です。**



誕生日（1944/8/29）のお祝いご挨拶をフェイスブックで沢山の方々から戴きました。ありがとうございます。

さて、本人は昨日までは明日は俺の誕生日と思っていたのですが、今朝はそんな気配は自分自身、全くありませんでした。

いつものように自分で朝飯に食パンを1枚。いつも使う卵は無くなったのであっさり系で作りましたが香ばしくて美味かった。

昼食、晩飯はいつものように炭酸水、特別メニューは無しで夜はふけました。

先日、地元の友達メンバーで運営しているZOOMによる「さいたま市民リモートカフェ」は、私が話題提供者。「私がやってきたこと、これからもやること」と題して、79年間を振り返りました。

質問がありました。

「同じ年齢だが、若狭さんが中国から引き揚げた時は小学2年生の最後。エレベスト初登頂やエリザベス女王の戴冠式などがあった年だが、私は記憶にないが、若狭さんはありますか？」

「あります。引き揚げて直ぐに母親と兄と私の3人が札幌の親戚の家に半年間世話になった時で、札幌の丸井百貨店のショーウィンドウに戴冠式の冠（模造品）が展示してあったのをよく覚えています。」と答えました。

敗戦直後の中国東三省を転々としたこともあり、様々な刺激があったからだろうが小学に入るだいぶ以前からの記憶が様々にあります。

北海道大学の農学部で、イールズ事件で解散させられた学友会（自治会）再建に取り組んだ時、同期の学生よりも、保守的と考えていたような教官や職員が様々な形で支援をしてくれた。

その時は理由がよくわからなかったが、その時点でイールズ事件は16年前。今なら良くわかるが、20歳の学生の16年前は大昔。

しかし、イールズ事件で同期の学生や教え子たちが退学させられた時、教官や職員だった方々、40、50歳、60歳の方々から見るとつい昨日の様な感じだったのだと思います。

私が自治会再建に取り組んでいた間、授業にも出なかったことも多く、良い学生ではなかった。

ある保守的と思っていた助教授が、授業中に、クラスの一人が「先生は若狭に甘い」という意見を述べたところ、「若狭君は自治会を再建したのだから」と一言。私も「えっ！」とビックリだった。

◆卒業が単位が不足しており、担当の教授から諦めろと言われたが、全ての該当する先生を訪ねたら、「君の教授は単位が足りれば卒業認定を申請すると言っているのか？」と言われ、「ハイ」と答えると、「あまり授業に出てないから、それ以外を聞こう」と言われ、大学運営や役割、中には、先生の思いを延々と述べられて最後に単位を頂けた先生もおられました。

農芸化学の教授とは私の講座教授が教職員組合の農学部委員長時代に学部長だった教授と激しくやり合い、「あの先生は諦めろ」と言われたが、「頂きました」と答えると、「本当か？」と言い、実際に先生を訪ね、「本当だった。良くできていると言われた。」とのこと。

農芸化学の教授は、息子さんとは高校で同期、大学も一緒の北大。

また、私の父が農芸化学だったこともあり、旧知。

ところが、追試は難しかった。幸いに出た問題は予習していたことに近かったことで必至に書いた。修了後、「何か勘違いをしている様だね」と言われ、「もう1回来なさい」と言われた。後日、訪問すると前回必至に書いた回答にフィットする問題が出された。ありがたいと前回よりも丁寧に記述した。

結果として合格ということになった。

担当教授は、これで卒業認定に必要な単位はそろったが、3月15日の卒業式は諦めろ、今年中に卒業させると言われた。卒業証書の発行年月日は3月31日となっている。

教授会が3月20日にあり、認定されたがたった一人で恥ずかしかったと言われた。

私は、3月21日から日本生協連北海道支所に出勤しており、卒業証書を受け取ることができないままとなった。15年後、同期の学友が講座に残り、助手、助教授、教授となり、その時、引継ぎの部屋を掃除したところ、私に渡してなかった卒業証書が出てきたという。

名誉教授となった担当教授は日本生協連の商品検査センターの顧問学識経験者だったこともあり、その会議に出席するに当たり持参してきてくれた。

その出席した会議では私の卒業証書の話で盛り上がったという事である。

自治会再建活動で、「学問の自由と学ぶ権利」をスローガンに呼びかけ文書を作成して配布したが、それを讀んだ北大教職員組合の農学部委員長が「この呼びかけなら必ず再建できる、職組の謄写版と用紙をいくら使っても良い」と言われた。

様々に先生達に助けられたようだ！！

79歳になって見ると、

16年前（63歳）、

32年前（47歳）、

48年前（31歳）、

64年前（15歳＝高校1年生、60年安保）

札幌南高で一般社会を選択、担当は南高で高教組唯一の組合員の森先生。

一般社会の授業では良くクラスディスカッションをしました。

高校生のデモ参加の是非が言われた時代だった。

80年前（昭和18年＝1943年 私はまだ生まれていなかった）

62歳で生協を定年退職。その時から、DME自動車普及促進委員会で事務局長。

併せて、現在の飼料用米の取り組みを始めた。

現在、日本の政権は戦争（戦中、戦後）体験を知らない方々ばかり。

**私も中国（旧 満州）で戦後の一時期を過ごしたことは、大変貴重な経験だと改めて
思います。**

いま少し、頑張りましょう！！

本日の私への誕生日への祝意に感謝を込めて！



さいたま市民のリモートカフェ



さいたま市民のリモートカフェ



HAPPY
BIRTHDAY